

## 第 53 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ	チーム名	2人ぼっち
タイトル	スミスの目で見ると日本の給料		
テーマ群	f)歴史・思想 g)その他		
メンバー	月足哉太、眞鍋尚陽		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b></p> <p>賃金の格差はなぜ存在するのか。</p> <p>「労働と資本の用途が異なることから生じる利益と不利益は、これを全体としてみると、同一地方では完全に均等であるか、またはたえず均等化される傾向がある」にもかかわらず、現実には不均等が生じているのは「物事が自然の成行きにしたがうままに放任され、完全な自由が行われ、各人が自分の適当と思う職業を選択するのにも、また適当と思うつど職業を変更するのにも全く自由であるような社会」でになっていないからであると、アダムスミスは『国富論』第1篇第10章の冒頭で述べている。果たしてそれは現代でも通用するのかについて、当時との比較を用いて研究していく。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>『国富論』第1篇第10章において、賃金の格差の原因としては大きく二つが挙げられており、「職業自体の性質から生じる不均等」と「国の政策によって引き起こされる不均等」とされている。「職業自体の性質から生じる不均等」には、①職業が快適であるか、②職業の習得が容易であるか、③雇用が安定しているか、④その職業に従事する人たちに寄せられる信頼の大きさ、⑤成功する可能性の高さが挙げられている。「国の政策によって引き起こされる不均等」には①その職業につける人々の人数の制限、②他の職業での競争を、そうでなければ自然に行われる以上に増大させること、③労働とストックの自由な流通の妨害が挙げられている。これらは現代日本経済にも当てはまるのか検討する。</p> <p><b>【期待される効果】</b></p> <p>現代と当時の賃金格差の原因を比較し、研究することで現代における賃金格差の根本的な原因の解明を目的としている。この研究を通じて浮かび上がってきた日本の賃金格差の歴史的背景を考察することで、この問題の解決のヒントが浮かび上がるかもしれない。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>『国富論』 アダム・スミス著 大河内一男訳 中央公論新社(中公文庫)</p>		